

《編集後記》

第Ⅱ期幹事として第Ⅰ期に引き続き「光彩」の編集幹事を担当する事になりました。相棒は圓山新幹事と事務局の新人佐久間女史です。よろしくお願ひします。この「よろしく」とは事務局を通して記事の執筆をお願いした時に断る事で編集幹事を困らせないで頂きたいという意味です。光彩が薄くなるか厚くなるかは会員諸氏の熱意（と幹事の編集方針）が左右します。光彩7号をお届けしますが薄かったでしょうか？それと7号の編集がやはり遅れました。会長から幹事に指名された旨、事務局から連絡があったのが5月初め。それからどんな内容にしようか、何か記事となるべきトピックスは？特筆すべき行事は無かったし・・・と考える新編集幹事の圓山氏と相談を始めたのが6月中旬・・・という訳です。会員の方には急に原稿を求められてビックリされた方もおいでかと思ひます。次号は気をつけます。さて、光彩は何と云っても会員間の意志疎通の道具であると同時に利用者懇談会とSPring-8建設の中心となっている共同チーム間の太いパイプの一つです。大いに利用されますよう。ところでまだSPring-8は稼働していませんからいわゆる研究成果は無く、従って光彩の内容も一種のやるぞやるぞという決意表明だけでここまで来た訳ですがいかにもしんどかった。ですが今年度の補正予算のおかげで23のSGが（相乗りBLとは云え）具体的な建設作業に入ることになりました。次号には設計や建設に関する汗と涙の記事がわんさと集まる事を期待しています。

難波 孝夫

春以降、共同利用ビームラインの建設に向けて大きな進展が見られました。「編集副幹事を」との仰せに、暢気に構えている間に、「共同利用ビームライン整備計画要求（第1次案）」の作成と相成りました。その準備に追われながら、この原稿を書いています。さて、光彩7号が皆様のお手元に届く7月下旬には、どの様な状態で居ることやら・・・今後、ビームライン建設の進捗に応じて、SPring-8の利用に向けての活動も、今までとは自ずと異なってくるものと思われまふ。SPring-8利用者への便宜を図りながら、意見を集約することも重要かと思ひます。「光彩」の情報源としての役割が益々重要に成ってきている訳です。どうぞ皆様のご協力を宜しくお願ひ申し上げます。

圓山 裕

事務局が地異人変の巻

庶務幹事 坂井信彦

神戸を大震災が襲い、財団が西播磨に移転する時が急にやってきた。財団はいずれ移転すると聞いていたし、「SPring-8利用者懇談会事務局は財団内に置く」という一心同体の規約に則り、当事務局もやがて西播磨に移転するのは自明のことではあったけれども、震災後の大混乱のなか、実際に話が決まるやSPring-8利用者懇談会事務局はにわかに気ぜわしくなった。事務局を切り回してくれた稲垣さんの西播磨への通勤が可能かどうかいろいろ手だてを相談してはみたがどうも無理となった。3月であった。事務引継をする時間的猶予もなくなって来ていた。大至急あたらしい事務局員を見つけなければならなくなった。西播磨現地にいるからと人選の大役を受けて不安であった。どうやって有能な人を短時間に探せるか。これから求人広告など間に合わない。山奥の勤務地だからやはり地元の人が良い。窮余の策をとった。丁度、姫路工業大学で平成7年度採用予定の非常勤職員の公募があり、こちらの要望を伝え、その応募リストから適当な数人を推薦してもらった。まさに独断でこの人と決め、大学から当人に勤務が応募先と変わるけれど”よろしいか”（方言でよいかの丁寧語）と相手が驚くような事情を説明して面接に出向いてもらった。

こうして決まりましたのが現事務局員佐久間さんです。ひとつ返事で来ていただきました。稲垣さんもなかなか気が強いところがありましたが、佐久間さんもなかなかです。幹事の諸先生の面々と口では負けない電話のけんかをよくしているようです。会計事務所に勤務された経験からすると、この利用者懇談会の事務処理はいいかげんところが多く、会員にもいい加減な先生やらがたくさんいて、拝見したところ大変戸惑っています。マーおいおい慣れていただき事務局と会員をうまく取り仕切って頂ける日が遠からず来るでしょう。みなさん気軽に事務局に電話して佐久間さんの声を聞きましょう。



数年前、新聞で西播磨の私の住むこの地がSPring-8の建設用地に決定した事を読んでやっと決まったか。と何かしら肩の荷をおろしたような気がしたのを覚えています。それと言うのも建設用地の一画が私の村が所有していた山だったからです。それゆえSPring-8に対しては、何らかの期待と希望を持っていました。

けれど、山に囲まれた小さな町で、まさか山の上に大型放射光が実際に出来るなどとい

うことは、夢見ていたにせよ現実に着々と出来つつある様子を見ても、別世界での、天上の出来事の如くのを考えている人達もいないわけではなく、つい最近までは、私にとっても遠い世界の出来事で、むしろ自然が破壊されてゆくのが、とても悲しかったものです。

それが、偶然にもSPring-8に関係する仕事をさせていただくことになり、懇談会の事務局の椅子に座った途端、訳も解りはしない癖に、自分が実験をするわけでもない癖に、どうして光の速さのように、SPring-8が早く完成しないのかと、妙に苛立ったりしています。

しかし、会員の皆様にとって事務局の仕事を何も知らない私の突然の出現は、不安材料がまた一つ増えたことと思います。今のところ内容がついていかないのですが、やる気だけは人に負けるもんかと、毎日、山のてっぺんで頑張っている仕事をしていると、本人は心の中で強く確信してはいるのですが、時々、いえたびたび、皆様にご迷惑をかけすると思いますので、大きな心を持ってうけとめて下さることをせつに、お願いいたします。

また、お暇がありましたらぜひ事務所におよりください。お待ちしております。

佐久間 明美

「光彩」 No. 7

1995年7月発行

発行 SPring-8利用者懇談会
〒678-12 兵庫県赤穂郡上郡町金出地1503-1
(財)高輝度光科学研究センター内
TEL 07915-8-0970 FAX 07915-8-0975

印刷 アイテム ジャパン
〒658 兵庫県神戸市東灘区深江本町3-1-6
TEL 078-413-5400 FAX 078-413-5335